

日本鐵鋼協會第 29 回講演大會 並に第 28 回通常總會記事

目 次

I. 實施概要	553	IV. 表彰式	571
II. 講演大會	553	V. 晩餐會	575
III. 第 28 回通常總會	557	VI. 工場・研究所見學	

I. 實施概要

日 時	第 1 日 昭和 18 年 4 月 3 日 (土祭) 自午前 8 時 30 分 至午後 5 時 25 分講演第 1 日・通常總會・表彰式 自午後 6 時 至午後 9 時 晩餐會
	第 2 日 昭和 18 年 4 月 4 日 (日) 自午前 8 時 30 分 至午後 5 時 講演第 2 日
	第 3 日 昭和 18 年 4 月 5 日 (月) 見學 第 1 日 (午前のみ 理化學研究所は午後)
	第 4 日 昭和 18 年 4 月 6 日 (火) 見學第 2 日(午前のみ)

場 所 講演會・通常總會・表彰式 帝國教育會館
晩餐會 法曹會館

出席者 申込數 1225 名
實際出席者 講演 (第 1 日) 725 名
講演 (第 2 日) 733 名
見學 (第 3 日) 432 名
見學 (第 4 日) 120 名
4 日間を通じたる實際出席者數 949 名/1225 名
内 { 講演出席者 838 名
見學のみの出席者 111 名

晩餐會 149 名/申込 167 名

内來賓 69 名 (他學會長 3, 名譽會員 1, 見學工場主 5, 表彰者 16, 講演者 38, 實行委員 6,)

會員 80 名

通常總會 (1) 總會出席者 111 名

總會決議に對する委任狀送附者 676 名

計 787 名 / 正會員數 2,752 名

(2) 投票及開票結果

當日投票	1 票	投票數 662 票 に對し 650 票 を以て原案通 り可決。
投票送達數	661 票	
原案賛成	650 票	
原案の一部に異議あるもの	12 票	

工場・研究所別見學者參加狀況

4 月 5 日 (月) 之部

班別	見學場所	所 在	出席者 實際 / 申込	集合時刻
C	中央航空研究所	府下北多摩郡三鷹町	29/50	午前 9 時 30 分
I	池貝鐵工所工作機械製造所	川崎市戶手町二丁目五三	41/83	9 時

KB	久保田鐵工所隅田川工場	向島區寺嶋三丁目六九	14/36	9 時 30 分
KK	東京帝國大學航空研究所	目黒區駒場	46/99	9 時 30 分
KO	日本鋼管株式會社扇町製鐵所川崎製鋼所	川崎市扇町	74/141	9 時
MI	三井精機工業株式會社	蒲田區下丸子三〇三	22/55	9 時
N	日産自動車株式會社	横濱市神奈川區室町二丁目	58/102	9 時
R	理化學研究所	本郷區上富士前町	26/49	午後 1 時
S	芝浦共同工業株式會社	横濱市鶴見區末廣町二丁目	31/65	午前 9 時 30 分
SE	日本石油株式會社鶴見製油所	横濱市鶴見區安善町二	11/30	9 時 30 分
TE	鐵道技術研究所	芝區海岸通一ノ	21/39	9 時 30 分
TK	日本鐵鋼工業株式會社	川口市宮町三四〇	30/55	9 時 30 分
TO	凸版印刷株式會社板橋工場	板橋區志村町	2/9	9 時 30 分
W	早稻田大學鑄物研究所	淀橋區戶塚町一丁目	27/45	9 時
4 月 6 日 (火) 之部				
M	株式會社宮製鋼所	城東區南砂町六丁目四一〇	55/95	9 時
MK	三菱鑛業研究所	大宮市北袋一六	65/78	9 時 30 分

配布印刷物

- (1) 昭和 17 年度會務報告同會計報告
- (2) 昭和 18 年度收支豫算報告
- (3) 大會出席者名簿
- (4) 第 29 回講演大會講演大要
- (5) 服部賞, 香村賞, 俵賞, 渡邊賞各受領者推薦理由書 (總會出席者のみ)

II. 第 29 回講演大會

第 1 日 4 月 3 日 (土・祭) 午前 8 時 30 分開會

定刻第 1 會場に於て總員國民儀禮の後, 松下會長より一場の挨拶あり, 開會を宣し, 第 1 會場・第 2 會場に分れ, 次記諸君の司會の下に夫々豫定通りのプログラムが進められた。唯第 10 番の益田義三君が事故の爲め, 第 12 番の奥山 隆君が急に物故せられた爲講演休止の已むを得ざることとなつたが, 幸に海軍航空技術廠の島田

技術大尉の申込みがあつたので、第10番だけは埋めることが出来た。そして時節柄参加者の減少が懸念されて居たにも拘らず、早朝からお仕舞迄場内立錫の餘地もなく、ひしひしと集られたことは、例年になく年と共に盛會の意氣昂り、大に頼もしく感ぜられた、御同慶に耐えないことである。午後5時25分閉會、本日司會の勞を執られた諸君は次の通り、

第1會場 第2會場

時間	講演番號	講演者	講演番號	講演者
自 8.40 至 9.50 (1.2.3)	松下 長久君 (35.36.37)	三島 徳七君		
自 10.05 至 11.15 (4.5.6)	藤井 寛君 (38.39.40)	池田 正二君		
自 1.00 至 2.10 (7.8.9)	岩瀬 慶三君 (41.42.43)	濱住松二郎君		
自 2.25 至 3.35 (10.11.12)	藤村 哲之君 (44.45.46)	河村 曉君		
自 3.50 至 4.35 (13.14)	水谷 叔彦君 (47.48)	齋藤 大吉君		
自 4.40 至 5.25 (15.16)	渡邊 三郎君 (49.50)	川上 義弘君		

講演第2日は生憎の雨天で、且つ寒さをも加へたに拘らず、熱心なる會員諸君は入り交り立ち替り、是亦例年になく入場者は第1日を超過したことは珍らしい。此の日もプログラムは順調に進んだが、第20番の加藤一十君が事故の爲中止となつたのは惜しき限りであつた。然し時局柄、何れも致方なき次第である。午後5時滞なく終了。

本日司會の勞を執られた諸君次の通り、

第1會場 第2會場

時間	講演番號	講演者	講演番號	講演者
自 8.30 至 9.40 (17.18.19)	田中 清治君 (51.52.53)	石田 四郎君		
自 10.15 至 11.05 (20.21.22)	齋藤 大吉君 (54.55.56)	岡田 實君		
自 11.20 至 12.05 (23.24)	吉川 晴十君 (57.58)	鹽澤 正一君		
自 1.00 至 2.10 (25.26.27)	的場 幸雄君 (59.60.61)	谷村 照君		
自 2.25 至 3.35 (28.29.30)	志村 繁隆君 (62.63.64)	依 國一君 金子 恭輔君		
自 3.50 至 5.00 (31.32.33)	松下 長久君 (65.66.67)	三島 徳七君		

日本鐵鋼協會第29回講演大會講演次第

會場 東京市神田區一ツ橋2丁目9番地 帝國教育會館

第1會場4階 第2會場4階

第1日 昭和18年4月3日(土) 午前8時30分開會

開會之辭 社團法人日本鐵鋼協會々長 松下 長久君

講演

午前之部

○印 講演者

第1會場

- 1) 鐵鋼中炭素分析法に於ける酸素放電效果に就て
第八陸軍技術研究所
陸軍兵技少尉 樋上 倫久君
- 2) 分析試料採取方法の重要性に就て(要幻燈)
株式會社神戸製鋼所技師
理學士 荒木 逸夫君
- 3) クロム鐵中の非金屬介在物の研究(IV)
(鹽素法に依る鋼中の非金屬介在物の定量法に就て)
(要幻燈)

日本特殊鋼株式會社研究所技師

理學士 森 脇 和 男君

10分休憩

- 4) 鐵及び鋼中の珪素並びに鋼滓及び岩石中の珪酸の新しき迅速定量法

東北帝國大學助教授

金屬材料研究所々員

理學博士 理學士 ○後 藤 秀 弘君

東北帝國大學助手 柿 田 八 千 代 君

- 5) 分光分析に於ける迅速性と正確性との關係に就て(要幻燈)

日産自動車株式會社

工學士 吉 城 肇 蔚君

- 6) 鐵鋼中の砒素分析法に就て

東京帝國大學第一工學部教授

工學博士 工學士 宗 宮 尙 行君

日本製鐵株式會社技術研究所

技師 理學士 ○武 井 格 道君

理學士 神 森 大 彦君

理學士 松 田 龜 松君

第2會場

- 35) 各種蓄熱室用耐火煉瓦に就て

品川白煉瓦株式會社岡山工場

技師 磯 常 和君

- 36) 珪石煉瓦目地に關する一考察

日本製鐵株式會社八幡製鐵所

技師 舟 橋 仁 哉君

- 37) 原鐵製造廻轉窯耐火煉瓦に就て

九州耐火煉瓦株式會社

技師 長 崎 勸君

- 38) 製鐵廻轉爐用耐火物に關する研究

昭和製鋼所研究所

無機化學研究室

理學博士 理學士 三 田 正 揚君

副參事 ○西 田 一 雄君

小 畑 政 男君

- 39) 珪石煉瓦の氣孔率に就て

黑崎窯業株式會社研究室

工學士 ○池ノ上 典君

理學士 高 良 義 郎君

- 40) 製鉄原料の篩分選別に就て

日本製鐵株式會社廣畑製鐵所

技師 中 村 春 三君

講演

午後之部

第1會場

- 7) 製鋼過程に於けるクロムの酸化に就て

川崎重工業株式會社製鋼工場

小 島 豊 榮君

工學士 ○矢 島 弘 一君

岡 部 英 雄君

- 8) 13% Cr 不銹鋼熔鋼の水素含有量低下に關する實驗
住友金屬工業株式會社
製鋼所研究部
理學士 ○大 中 都 四 郎 君
瀨 田 猪 左 雄 君
- 9) 酸性電氣熔解作業に關する二三の考察(第 2 報)
大阪陸軍造兵廠第四製造所
陸軍兵技大尉工學士 ○河 合 正 雄 君
陸軍兵技中尉工學士 櫻 井 豊 七 君
- 10) スクラブ代用原料に關する研究
海軍航空技術廠支廠
海軍技術大尉 島 田 正 富 君
- 11) 熔鋼中のマンガ—珪素—酸素間の平衡に就て
三菱製鋼株式會社長崎製鋼所研究課長
技師 理學士 河 合 正 吉 君
- 13) 鹽基性電氣爐鋼滓の研究(第 1 報)
(鋼滓の顯微鏡的組織)(要幻燈)
大同製鋼株式會社研究部
理學博士 理學士 外 村 德 三 君
○北 川 良 也 君
- 14) 酸化鐵と酸化マンガとの固態反應に關する研究
昭和製鋼所研究所冶金研究室
工學士 藤 田 守 太 郎 君
Ph.D. ○有 山 恭 藏 君
- 15) 炭素に依る脱酸の研究
佐世等海軍工廠造機部
海軍技術少佐 工學士 高 橋 富 士 雄 君
- 16) 鋼の低温燒入に就て(要幻燈)
株式會社神戸製鋼所技師
工學士 ○梅 澤 光 三 郎 君
望 月 修 次 君
會 根 太 郎 君
- 第 2 會 場
- 41) 椰子油に關する二三の實驗
大阪陸軍造兵廠研究所
陸軍技師 牧 野 恒 光 君
- 42) 特殊鋼の衝擊値に及ぼす等温變態熱處理の影響
株式會社日本製鋼所室蘭製作所
理學士 阿 部 三 郎 君
- 43) 特殊鋼の滲炭硬化處理に關する二三の研究
株式會社神戸製鋼所神戸工場研究部
工學士 上 田 滿 正 君
- 44) 球軸受用クロム鋼の熱處理に關する基礎的研究
不二越研究所
工學士 川 口 寅 之 輔 君
- 45) 軸受用鋼の壓壞試験に對する材料力學的考察
日本鋼管株式會社技術研究部
理學士 柏 原 方 勝 君
- 46) 鋼材の空冷に就て
日立製作所安來工場冶金研究所
理學士 木 戸 行 男 君

- 47) X 線的應力測定法に關する研究(第 1 報)
三菱製鋼株式會社長崎製鋼所研究課
技師 大 原 三 代 喜 君
- 48) 鑄鋼の高温龜裂に關する研究(第 1 報)
三菱重工業株式會社長崎造船所
技師 工學士 木 下 禾 大 君
- 49) 高純度の鐵を實驗室的に製作する一方法に就て
北海道帝國大學講師
工學士 早 矢 仕 功 君
- 50) Cr-Mo 鋼飯の熔接割れに關する實驗的研究
大同製鋼株式會社
工學博士 ○錦 織 清 治 君
柳 沼 隆 君

第 1 日講演會終了

第 2 日 4 月 4 日(日)講演會(會場前日同斷)

講 演

午 前 之 部

第 1 會 場

- 17) 特殊鋼材の内傷に關する研究(第 1 報)
白點に關する諸學說の批判(要幻燈)
株式會社神戸製鋼所技師
工學士 梅 澤 光 三 郎 君
- 18) 特殊鋼材の内傷に關する研究(第 2 報)
鍛鍊方法の改善による白點の防止
株式會社神戸製鋼所技師
工學士 梅 澤 光 三 郎 君
- 19) 金屬セメンテーションに關する研究(第 1 報)(要幻燈)
第八陸軍技術研究所
陸軍兵技中尉工學士 竹 内 久 祐 君
- 21) 鐵の新しき AN 變態に就て
北海道帝國大學講師
工學士 早 矢 仕 功 君
- 22) 小形壓延棒鋼材特に強靱鋼に於ける表面疵の發生原因とそ
の防止方法に就て(要幻燈)
日本鋼管株式會社技術研究部
高 島 德 三 郎 君
- 23) 球軸受用クロム鋼に及ぼす銅の影響
不二越研究所
工學博士 工學士 石 田 求 君
工學士 川 口 寅 之 輔 君
○田 尻 仁 郎 君
- 24) 金敷の形狀に關する一考案(要幻燈)
株式會社日本製鋼所室蘭製作所
關 米 助 君
工學博士 ○萩 原 巖 君
理學士 下 田 秀 夫 君

第 2 會 場

- 51) 鋼滓自由成分の近似計算法
三菱製鋼株式會社長崎製鋼所研究課長
技師 理學士 河合正吉君
- 52) 鹽基性電弧還元鋼滓の粘性の研究
住友金屬工業株式會社鋼管製造所
理學士 松浦二郎君
- 53) 熔滓粘度計に就て
大阪陸軍造兵廠研究所
陸軍兵技中佐 藪内周三郎君
陸軍兵技大尉 酒井彗三郎君
- 54) 製鋼反應の物理化學的研究(第11報)
(熔鐵中に於ける脱炭速度恒數)
北海道帝國大學金屬化學研究室
理學士 平野智也君
日本製鐵株式會社技術研究所技師
理學士 田尻惟一君
- 55) 製鋼反應の物理化學的研究(第10報)
 $2[Al] + 3CO \rightleftharpoons 3[C] + [Al_2O_3]_{sat}$ の測定
北海道帝國大學教授
理學博士 柴田善一君
室蘭高等工業學校
理學士 柳橋哲夫君
- 56) Fayalite (Fe_2SiO_4) の還元平衡に就て
名古屋帝國大學教授
理學博士 佐野幸吉君
工學士 丸田良平君
工學士 大高忠夫君
- 57) 熔融せる FeO 滓の下に於ける純鐵の酸素溶解度並に冷却凝固に際しての酸素分離に就て
日本特殊鋼株式會社技師
工學士 矢島忠和君
- 58) Mn 反應の實驗室的的研究
日本特殊鋼株式會社技師
工學士 矢島忠和君
- 第1會場
- 25) 回轉造塊法に關する基礎實驗(要幻燈)
株式會社日本製鋼所室蘭製作所
工學博士 工學士 萩原巖君
理學士 下田秀夫君
福島和俊君
- 26) Si-Mn-Cr 構造用鋼に就て
大同製鋼株式會社
工學博士 錦織清治君
淺田千秋君
- 27) モリブデンを含有せざる高温高壓用合金鋼としての低炭素含タングステン鋼に就て
住友金屬工業株式會社
鋼管製造所研究部
工學士 寺町忠夫君
- 28) 航空機構造用鋼としての Cr-Mn-V 鋼の基礎的研究
住友金屬工業株式會社鋼管製造所
工學士 小島義正君
- 理學士 下川義雄君
- 29) マンガン、クロム、モリブデン強靱鋼に及ぼすバナヂウムの影響に就て
住友金屬工業株式會社製鋼所
工學士 山本信公君
- 30) ニツケルクロム代用鋼としてのクロムワナヂウム鋼に關する研究(第3報)
日本砂鐵鋼業株式會社高砂工場
工學士 上野建二郎君
佐藤進君
- 31) 特殊鋼の質量效果に就て(第2報)
ニツケルクロム鋼及クロムモリブデン鋼に關する研究
大同製鋼株式會社
理學博士 清水定吉君
竹本專一君
杉直二君
- 32) 特殊鋼材の内傷に關する研究(第3報) 磁氣疵問題の解決
附分塊ロール孔型の一案(要幻燈)
株式會社神戸製鋼所技師
工學士 梅澤光三郎君
- 33) 造塊に關する實驗(要幻燈)
株式會社日本製鋼所
工學士 黒川慶次郎君
- 第2會場
- 59) 粒鐵製造中規模試験に就て
昭和製鋼研究所 冶金研究室
參事 工學士 垣内富士雄君
- 60) 劣悪炭の混炭燃焼
株式會社日立製作所
日立工場製鋼部
鍛鍊課員 山縣謙一君
- 61) 低品位ニツケル鐵の製鍊に關する研究(第2報)
北海道廳技師
工學士 佐野正夫君
- 62) 平爐生産に及ぼす錳種の影響
株式會社内外製鋼所船堀工場
内田新八君
- 63) ベンチュリー式平爐に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所
工學士 武田喜三君
- 64) 廣幅鋼帶連續壓延機の据付に就て
日本製鐵株式會社廣畑製鐵所
技師 工學士 嶺次男君
- 65) 焔による表面硬化に關する二三の問題
株式會社神戸製鋼所神戸工場
工學士 市來崎進君
裏川康一君
- 66) 高速度工具に關する研究(第9報)
吳海軍工廠製鋼實驗部
海軍技師工學士 堀田秀次君

7) 無ニッケル非磁鐵の研究

九州帝國大學工學部冶金學教室教授
工學博士 工學士 谷村 照君
閉會之辭
日本鐵鋼協會々長 松下長久君

III. 日本鐵鋼協會第 28 回通常總會

日時 昭和 18 年 4 月 3 日 (土) 午前 11 時 37 分開會 午後
0 時 35 分閉會

會場 東京市神田區一ツ橋 2 丁目 9 番地 帝國教育會館第 1 會
場

閉會之辭 社団法人日本鐵鋼協會 會長 松下長久君

I. 議事

- イ 昭和 17 年度會務報告
- ロ 昭和 17 年度收支決算報告
- ハ 昭和 18 年度收支豫算報告
- ニ 任期滿了役員 (評議員) 改選 (投票・開票)
- ホ 鐵鋼業の趨勢

II. 表彰式

- イ 服部賞贈呈式
- ロ 香村賞贈呈式
- ハ 俵賞贈呈式
- ニ 渡邊賞贈呈式

會長開會の辭並に議事録

社団法人日本鐵鋼協會會長 松下長久

(午前 11 時 37 分開會)

是から第 28 回の通常總會を開會致します。

I. 會務報告

簡単に會務の御報告を申し上げたいと思ひます。御手許に報告書を差上げてございますので、細かいことは省略させて頂きまして、其の中の主なるものに付きまして、御報告を申し上げたいと存じます。

1. 本協會の發展

此の大戦争下に於きまして、鐵鋼の増産、其の質の向上、此の二つの問題は、我々鐵鋼業に携はる者に課せられました大きな問題でございます。最近戦局が益々擴大されて、色々の物資が必要になつて参つて居る中にも、此の鐵鋼の必要は益々増加して参りました。此のことから内地に於きまして多量の鐵鋼を御使ひになる各種工業の發展により益々多忙になりました關係上、鐵鋼協會に御入りになる方が最近特に増加せられて、昨年 2 月末には總會員數 5253 名でございましたのが、今年 2 月末に於きましては 6139 名となり、916 名の増加になつて居りまして、最近では毎月約 100 名位、入會せられて居ります。是は先程も申しましたやうに、我が國に於ける鐵鋼業、及びそれを使ふ各種の事業が發展し、以て此の曠古の大戦争を勝抜かんと心強き現はれたと存ずる次第であります。

2. 研究部會

協會は色々の仕事をやつて居りますが、其の中にも此の鐵鋼の

製造並に其の質の向上に關する研究は、最も力を入れて居る仕事の一つでありまして、随つて之に關聯して各種の研究部會が開催されておりますが、既に昨年秋の大會にも御報告致しましたが、電氣製鋼研究部會、是は昭和 14 年 4 月に川崎舎博士を委員長に御依頼致しまして、既に昨年まで 5 回の部會を開かれ、小委員會は實に 65 回に達する委員方の御努力の結晶によりまして、昨年 4 月に其の總會を開催の上終了されたのであります。目下報告書を整理中でございますから、近く皆様の御手元に御送り出来る事と存じて居ります。

第二は電氣製鋼と兄弟と申しますか、關係の深い鋼鑄物の研究部會でございます。鋼鑄物は必ずしも電氣爐に依るとは限りませぬが、最近では電氣爐を使用する場合は相當に多いのであります。此の鑄物の研究が又我が國に取りまして非常に大切であると云ふことから、當協會と日本鑄物協會とが聯合致しまして、石川登喜治博士に委員長を御願ひして、昨年 10 月第二回の總會を開いて、是も終了致しました。近く整理中の報告書が完了致しますれば貴重なる資料になる事と存じます。

第三は自動車用鐵鋼材の研究部會でございます。是は機械學會と聯合で吉川博士に委員長を御願ひし、之の研究を重ねて居りまして、昭和 14 年から 15 年に掛けて三回の研究部會を開いたのであります。最近代用鋼の使用が益々多方面且多量になつて参りましたので、此の研究部會を主に其の方面に向けて續行中でございます。

それから平爐の熱測定に對する研究部會でございますが、是は既に昭和 14 年から 16 年に掛けて、海野博士が委員長として熔鑄爐の熱的研究、溫度測定等につきましては大體終了致しましたが、最近御承知のやうに燃料の性質が低下致しましたので、之の對策的見地から又研究が必要になりましたので、海野博士を中心にして續行致すことになり、今年 5 月に滿洲鞍山の昭和製鋼所に於きまして當部會を開くことになつて居ります。

次に耐火材料の研究部會でございますが、御承知の通り耐火材料は我々鐵鋼業に取りましては、熔解加熱等各種の仕事に關聯して非常に必要なものであります。其の中の一つである造塊關係の耐火材料、例へば取鍋、内張用煉瓦、ストップ、ノズル、スリーブ等と各種煉瓦の材質、形狀に關する研究部會を日本窯業協會と聯合して日本窯業協會理事長の黒田泰造さんに委員長を御願ひしてやつて居りましたが、是も昨年終了致しまして、標準規格の案が出来ましたので、技術院規格統一調査會に關係書類を提出し、又當協會の會誌にも之を載せまして、廣く御意見の御發表を願つたのであります。近く技術院に於て御審議になる事と存じますが何れにしましても是等の研究が各方面に貢獻する所多大であると信じて本會の使命達成の一部と存じ欣幸とする所であります。

次に優良特殊鋼の製造に對する鹽基性平爐に關する研究に就て海軍省艦政本部第 5 部から當協會に御依頼がございましたので、吉川博士に之の起案を御願ひ致して居ります。是は十七年度の問題ではございませぬが、序に御披露申しておきます。

3. 今泉記念資金

次は今泉博士の記念資金の件でございます。御承知のやうに鐵鋼協會は各種の記念資金を戴いて居りまして、それに依つて今日も名譽ある方々の表彰式が行はれたのであります。御承知のやう